

わたしの記念として

主任司祭 吉池 好高

御復活祭おめでとうございます。新たに洗礼の恵みをいただいた皆さんとともに、主の復活を新たな心で祝いましょう。主の十字架の死と復活こそ、私たちの信仰の源です。洗礼の恵みをいただいたわたしたちは、自分たちの信仰の源に絶えず思いを寄せて、ともに感謝の祭儀を祝います。わたしたちの信仰は、主イエス・キリストの十字架において示されている神の愛を信じる信仰です。主イエス・キリストの十字架において神はわたしたちへの愛をその極みまでお示しくされました。最愛の御子をわたしたちのためにお与えになった父なる神の愛と、その愛をわたしたちに示し与えるためにご自分の愛を命の極みに至るまで与えつくしてくださった神の御子、主イエスの愛がその十字架の死のお姿を通してわたしたちに示されたのです。愛する者のために、ただただ愛のゆえに自分の命を与えつくす愛の極みが、十字架のお姿を通して示されているのです。わたしたちの心が自分たちに注がれているそのような愛に気づき、その愛に感応できるとすれ、それはわたしたちの心の能力をはるかに超えたことです。神をそのようなわたしたちの心を知っておられ、その愛をもってわたしたちの心の限界を打ち開いてくださったのです。自分たちがいただいている恵みに慣れっこになって、そのありがたさを忘れてしまいがちなわたしたちが、その恵みを忘れることなく、感謝のうちに生きることができるために、神はその愛のしるしを、私たちの中に残し留めてくださいました。「私の記念としてこれを行いなさい」。最後の晩餐のこのみことばに促されて教会はミサを執り行ってきました。ミサをささげるたびごとに、主イエス・キリストの十字架の死と復活の過越しの神秘が思い起こし、これほどまでの神の愛に感謝の誠をおささげするのです。主イエス・キリストの十字架の死と復活を記念するミサに集うたびごとに、わたしたちは、私たちのために与えられる主の命の糧に養われ、互いに同じ恵みの命に養われる者たち同士であることを思い起こし、ともに感謝と賛美をささげるのです。わたしたちはどこにいても、この愛の宴に招かれているのです。